

指導と評価の一体化を明確にした授業づくり

都道府県・指定都市番号		記入者氏名	
都道府県・指定都市名		校種・領域	中学校 ⑦武道

時間	ねらい・学習活動	学習活動における具体の評価の規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
はじめ 1	<p><b>&lt;オリエンテーション&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習のねらいと内容を理解する。</li> <li>○剣道の歴史や特性を知る。</li> <li>○グループ編成と役割分担をする。</li> <li>○学習の進め方、見通しを知る。</li> <li>○用具の名称・扱い方と安全について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道に関心を持ち、意欲的に活動しようとする。 (教師の観察・自己評価)</li> <li>◎グループ編成や学習目標を、中心となって行っている。 (教師の観察・自己評価)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今持っている能力や自己の課題を把握している。 (学習カード)</li> <li>◎課題解決についての計画を具体的に立てている。 (学習カード)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道の特性や学習の進め方を理解している。</li> <li>・竹刀や防具の名称を正しく理解している。 (発言・自己評価)</li> <li>◎剣道の特性や学習の進め方を理解し、説明できる。</li> </ul>
なか 2 6	<p><b>ねらい1</b></p> <p>基本動作や対人的技能を身につけ、安全に練習や試合ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○礼儀作法を理解する。</li> <li>○基本動作を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然体 ・中段の構え ・間合い</li> </ul> </li> <li>○対人的技能を練習する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・足さばき(歩み足、送り足、開き足、継ぎ足、踏み込み足)</li> <li>・素振り(前進後退、左右面等)</li> <li>・正面打ち ・小手打ち ・胴打ち</li> </ul> </li> <li>○審判法を理解する。</li> <li>○基本試合を行う。</li> <li>※ねらい2に向けて各自やグループの課題を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に準備や稽古に取り組もうとする。 (教師の観察)</li> <li>◎グループの中心となって練習に取り組んでいたり、他のメンバーにアドバイスをを行っている。 (教師の観察・学習カード)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分勝手に打ち込むだけでなく、相手のことを考え打ったり受けたりして、練習している。 (観察・学習カード)</li> <li>◎相手の体格を踏まえて判断し、打ち込んだり、受けたりしている。 (学習カード)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道の基本動作を身につけ、練習に取り組むことができる。 (教師の観察)</li> <li>・身についた基本打ちを生かして基本試合に取り組むことができる。 (教師の観察)</li> <li>・審判ができる。</li> <li>・立ち会いや礼儀作法ができる。 (教師の観察)</li> <li>◎立ち会いや礼儀作法が正確にできる。</li> <li>◎気剣体が一致した打突ができる。</li> <li>◎審判の旗の上げ方や、発声が正確にできる。 (教師の観察)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道に関する技の種類を理解している。 (教師の観察)</li> <li>◎有効打突の条件を理解し、説明できる。 (学習カード)</li> </ul>
なか 7 10	<p><b>ねらい2</b></p> <p>身につけた基本動作や対人的技能を生かし、練習や試合ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○防具の着脱と結束のしかたを知る。</li> <li>○しかけ技の練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・面 ・小手 ・胴 ・小手一面</li> <li>・引き技(引き面 ・引き胴)</li> </ul> </li> <li>○総合的な練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・切り返し</li> <li>・打ち込み練習</li> </ul> </li> <li>○自由練習と簡易試合をする。</li> <li>※これまで学習した技を確かめるための練習や試合をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防具の着脱等を自分で行い、他の生徒と一緒に取り組もうとする。 (教師の観察)</li> <li>◎グループの中心となって練習に取り組んでいたり、他のメンバーにアドバイスをを行っている。 (教師の観察・学習カード)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習の中から自己の課題を見つけている。 (観察・学習カード)</li> <li>◎自分の課題を把握し、具体的な解決方法を見つけている。 (学習カード)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けた基本打ちやしかけ技を生かして練習や試合ができる。 (教師の観察)</li> <li>・自分で防具の着脱や結束ができる。着脱では途中でひもがほどけない。 (教師の観察)</li> <li>◎正しい間合いから打突ができ、気剣体の一致した打突ができる。</li> <li>◎正しい着脱と結束ができ、途中でひもが外れない。 (教師の観察)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道に関する技の種類を理解している。 (学習カード)</li> <li>◎剣道に関する留意事項や決まりを理解し、安全に行動することができる。 (教師の観察)</li> </ul>
まとめ 11	<ul style="list-style-type: none"> <li>○簡易試合を行う。</li> <li>○剣道で学習したことを総括的に評価し、次の学習に向けてまとめをする。</li> <li>・剣道を楽しむことができたか。</li> <li>・協力し励まし合いながら、工夫して練習や試合ができたか。</li> <li>・正しい基本動作や対人的技能が身についたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して試合を行おうとする。</li> <li>・試合の判定に対して公正な態度をとろうとする。 (教師の観察)</li> <li>◎他のチームと協力して、効率よく試合を行おうとしている。</li> <li>◎試合のなかで積極的にアドバイスや応援をしようとしている。 (教師の観察)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の動きに応じて技を選択している。 (教師の観察)</li> <li>◎打突の機会を捉えたとともに相手の動きに応じた技を選択している。 (教師の観察)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の身に付けた技で試合ができる。 (教師の観察)</li> <li>◎自分の得意技で試合ができる。打突の機会を捉えて技を出すことができる。 (教師の観察)</li> </ul>	

## 2. 評価規準

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
内容のまとめり ごとの評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武道の特性に関心を持ち、楽しさやよろこびが味わえるように進んで取り組もうとする。また、伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、練習や試合をしようとするとともに、勝敗に対して公正な態度を取ろうとする。さらに、安全に留意して練習や試合をしようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の能力に適した技を習得するための練習の仕方や試合の仕方を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武道の選択した種目の特性に応じた技能を身に付け、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武道の選択した種目の特性や学び方、技術の系統性・構造、合理的な練習の仕方を理解するとともに、試合や審判法を理解し、知識を身に付けている。</li> </ul>
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に適した技を習得し、相手の動きや技に対応した攻防や、勝敗を競い合う剣道の楽しさやよろこびを味わおうとする。</li> <li>・勝敗の結果を受け入れようとする。</li> <li>・用具や服装、練習場（道場）などの安全を確かめたり、練習や試合をする上で安全に留意しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作と対人的技能との関連を図っている。</li> <li>・練習や試合の中で、自分の課題を見つけている。</li> <li>・試合では、個人や団体戦などの形式や、判定の基準や審判法を工夫して行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作と自分の能力に適した対人的技能で練習や試合ができる。</li> <li>・状況に応じて狙った部位を打つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道の特性や学習の進め方、基本動作や対人的技能の構造、自分や相手の課題にあった練習や試合の仕方を知っている。</li> <li>・剣道の礼儀作法、試合の運営やルール、審判法を知っている。</li> </ul>
学習活動における 具体の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道に関心を持ち、意欲的に活動しようとしている。</li> <li>・積極的に練習に取り組もうとしている。</li> <li>・防具の着脱等を自分で行い、他の生徒と一緒に取り組もうとしている。</li> <li>・協力して試合を行おうとしている。</li> <li>・公正な態度をとろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今持っている能力や自己の課題を把握できている。</li> <li>・自分勝手に打ち込むだけでなく、相手のことを考え打ったり受けてたりして練習している。</li> <li>・練習の中から自己の課題を見つけている。</li> <li>・相手に応じて技を選択している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道の基本動作を身につけ、練習に取り組むことができる。</li> <li>・身についた基本打ちを生かして基本試合に取り組むことができる。</li> <li>・自分で防具の脱着や結束ができる。着装では、途中でひもがほどけない。</li> <li>・身につけた技で試合ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・剣道の特性や学習の進め方を理解している。</li> <li>・竹刀や防具の名称を正しく理解している。</li> <li>・剣道に関する技の種類を理解している。</li> </ul>

# 保健体育科学習指導案

平成19年9月6日(木) 第5校時

第1学年1組 男子 20名

指導者

## 1 単元名 武 道 (剣 道)

### 2 単元目標

- ・剣道の礼儀作法や基本動作を正しく身につけ、互いに相手を尊重しながら公正な態度で練習や試合ができる。
- ・自己の技能に応じた課題を設定し、その解決のための練習方法や内容を工夫するとともに、安全に留意して活動することができる。
- ・基本動作や対人的技能を身につけ、自分の得意技を生かした練習や試合ができる。
- ・基本動作や試合のルールを理解し、練習や試合を通して公正な判断で行うことができる。

### 3 単元について

#### (1) 運動の特性

剣道の特性は、防具を着け竹刀を持って相手と対し、互いに相手の動きや技に応じて打つ、かわすなどの攻防を繰り返す対人的競技である。そのための竹刀の操作や身体動作と相手との「攻め合い」などが重要となる。

また、我が国古来の剣術から発生した競技であり、伝統的な礼法や行動の仕方、練習方法(稽古)を学びながら、安全に練習や試合ができるために相手を尊重する公正な態度が要求される。

剣道は、武道の特性としての長い歴史を持つものであるが、現在では男女や年齢を問わず、生涯にわたって手軽に楽しむことのできるスポーツ性の要素も深くなっている。そういった面からも生涯スポーツの基礎を培う運動領域であるといえる。

#### (2) 生徒について

アンケートの結果から、一番好きな教科を保健体育科と答える生徒が半数以上を数える。また、保健体育科の中で学習したい運動領域の上位に武道がきていることなどから、武道への興味・関心は比較的高いと思われる。

ただし、武道の領域も広く、剣道を一番に考えている生徒は、1/3程度である。好きか嫌いかという問いに対しては、半数以上の生徒は好きと答えており、「かっこいいから」「思いっきり動ける」などと思っているようだ。逆に嫌いだと答える生徒は、「いたいから」とか「防具がくさいから」と答えている。

部活動に所属している剣道経験者が6名いるため、この生徒たちをリーダーとして活用していくことで授業をスムーズに展開していきたい。

#### (3) 指導観

剣道に関しては、基本動作や決められた礼法や剣を扱う心構えなどを教え、その形の中で生徒を動かしていくことが必要となる。よって初歩的な段階では一斉指導で展開し、基本動作から基本打ちの徹底を図っていくことが重要となろう。

しかし、基本動作の繰り返しだけでは、生徒の意欲も低くなってしまいがちになるので、基本の試合を行わせることにより、自分がどのくらいの技能を身に付けているかを客観的に把握したり、ねらい2に向けての課題を設定できる場面を設定した。

また、試合や審判法について早い段階から学習させることで、伝統的な礼法や行動の仕方を学ぶとともに、他の生徒の試合から学び取ったり、自分と比べたりしながら、学習の深化を図らせたい。

これらの段階をふまえ試合で一本のとれる基本打ちの指導を目指し、気・剣・体の一致した技を目標としていきたい。

## 4 評価規準(別紙参照)

## 5 単元計画と評価計画(別紙参照)